|  |
| --- |
| **質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容** |
| ①　交流プログラムの目的・概要等【３ページ以内】  ○　国民にとって分かりやすい具体的な目標が設定されているか。また、当該目標がプログラムの社会的・国際的通用性を示すものとなっているか。  ○　養成しようとする人材像が明確に設定されているか。  ○　アウトプットだけでなくアウトカムに関する具体的な目標及び指標が設定されているか。  ○　各大学の中長期的なビジョンのもと、COIL/VE等、質の伴ったオンライン教育手法を活用した最先端の国際教育交流基盤を構築し、実渡航の価値をより高めつつ、実留学にも繋がる仕組みとなっており、バランスの取れた双方向の交流を促進するプログラムとなっているか。（★）  ○　高等教育制度の相違を超えた質保証の共通フレームワークの形成、単位の相互認定や共通の成績管理の実施、学修成果や教育内容の可視化等の質の保証を伴った交流プログラムの実現を目指すものになっているか。（★） |
| 【交流プログラムの目的及び概要等】 |
|  |
| 【養成する人材像】 |
|  |
| 【本事業で計画している交流学生数】各年度の派遣及び受入合計人数（交流期間、単位の取得の有無は問わない） |
| |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | 2023年度 | | 2024年度 | | 2025年度 | | 2026年度 | | 2027年度 | | | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | |
| **②　事業の概念図【３ページ以内】** |
|  |
| **③　国内大学等の連携図【1ページ以内】** |
|  |
| **④－１　交流プログラムの内容【８ページ以内】**  ○　質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組が設定されているか。  ○　海外相手国との将来の関係を見据え、各国間における連携強化に資する観点から、社会的・文化的・経済的認識に根ざした、各国間の架け橋となる高度専門人材やリーダーの育成を実施する質の高い教育連携プログラムとなっているか。（★）  ○　我が国の大学間交流促進の牽引役となるような先導的な事業計画であり、大学の中長期的なビジョンのもとに戦略的な交流プログラムが計画されているか。  ○　プログラムを実施する部局等にとどまらず、全学的な責任・協力体制の下でプログラムが構築されているか。（★）  ○　短期の交流から学位取得を見据えた長期の交流、オンラインを活用した様々な交流を見据え、大学間交流の発展に繋がるような、柔軟で発展的な交流プログラムとなっているか。  ○　多様な学生に交流プログラムへの参加の機会を提供できるよう、必要に応じ我が国の大学と連携して事業を行うものとなっているか。  ○　本事業を通じ、英語で卒業（修了）可能な科目・プログラムを実施する場合、外国人留学生と日本人が真に学び合う学修環境（アクティブラーニング等）が実施される取組となっているか。（★） |
| 【実績・準備状況】 |
|  |
| 【計画内容】 |
|  |
| **④－２　学生主体の国際交流プログラム【３ページ以内】**  ○　国内外の学生が主体となって、共同で企画・立案する取組（学生サミット・ワークショップやアントレプレナーシップの醸成に資する実践的なプログラム等、正規外の取り組みも想定）を含むプログラムとなっているか。（★） |
| 【実績・準備状況】 |
|  |
| 【計画内容】 |
|  |
| **④－３　オンライン（「JV-Campus」等）を活用したプログラム　【３ページ以内】**  ○　オンライン教育（「JV-Campus」等）の活用について、以下の項目を満たす計画となっているか。  　・自大学及び国内連携大学・海外相手大学の質の高い教育・交流プログラムの実施及びより多くの学生の参加を促す工夫がなされているか（★）  　・事業開始初年度から海外相手大学においてもJV-Campusを積極的に活用する計画となっているか（★）  　・遅くとも事業開始３年目までには、自大学と国内連携大学・海外相手大学が有する専門教育科目を含むコンテンツをパッケージとして本事業採択校以外の大学にも提供する計画となっているか（★）  ○　【タイプＢのみ】JV-Campusの活用について、採択大学及びその国内連携大学・海外相手大学から提供されたコンテンツを効果的に国内外の学生等に発信する以下①～⑤の仕組みを含む環境を構築する計画となっているか。（★）  ①　提供されるコンテンツについて、学修者の教育効果を測ることのできるテストや課題等が付加されたものとなるような仕組み  ②　受講者に対し、デジタル化された学修証明書が付与される仕組み  ③　インターンシップ等、本事業内で実施される活動がデジタル化された学修歴として付与される仕組み  ④　ＡＰ（アドバンスト・プレースメント）が推進される仕組み  ⑤　ハイブリッドでの学びの価値や成果等、グットプラクティスの情報発信がなされる仕組み  ○　【タイプＢのみ】JV-Campusの利用に関する目標が適切に設定されているか。（★） |
| 【実績・準備状況】 |
|  |
| 【計画内容】 |
|  |
| **⑤　質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成　【９ページ以内】**  ○　透明性、客観性の高い厳格な成績管理（ルーブリック等を用いた各授業科目の到達目標の具体的な達成水準の明確化や教務に関する委員会の点検等を通じた事後的に検証する仕組みの構築等）、コースワークを重視したカリキュラムの構成、学生が履修可能な上限単位数の設定、学修目標の明確化、学修成果の可視化と出口管理の厳格化に努め、単位の実質化を重視しているか。  ○　単位の付与・相互認定や成績管理、学位授与に至るプロセスが明確になっているか。  ○　海外相手大学における単位制度（授業時間を含めた学修量や単位の換算方法等）、学生の履修順序、単位の相互認定の手続、アカデミックカレンダーの相違等について留意がなされ、交流するプログラムの内容に応じたサポートの実施等により、学生の履修に支障がないよう配慮されているか。  ○　下記①～⑤の少なくとも一つ以上に該当する、質の保証を伴った交流プログラムの実現を目指すものとなっているか。（★）   1. 国際共同学位プログラム（ジョイント・ディグリー（以下、「JD」）やダブル・ディグリー（以下、「DD」））を構築し、事業開始５年目までに実施 2. ＡＰ（アドバンスト・プレースメント）科目の導入により、高校から学部、学部から大学院進学に繋がるような仕組みの構築 3. 授業料の相互不徴収 4. 学位やマイクロクレデンシャルの国際通用性の観点も含めた電子化の推進（デジタルバッジの活用等） 5. 企業や自治体等と協力し、留学生（日本人・外国人）の卒業後の進路に繫がるようなインターンシップの実施   ○　米国等との大学間におけるオンラインを活用した交流については、以下①②に該当する、質の伴った教育研究、学生交流プログラムとなっていること。（★）  ①　実渡航の価値を高めるとともに、実留学にも繋がる仕組みとなっていること。  ②　国内外の学生が真に学び合う学修活動（アクティブラーニング等）の機会が含まれたもので、教育効果に十分配慮したプログラムとなるよう、現地学生や教員との交流等について大学等の関係機関・団体等間で事前に協議し、そのプログラム内容と得られる教育効果が具体的に示されているものであること。（※単位取得を伴わない場合については上記に加え、修了者に修了証等が出されるプログラムであること。）  ○　国際公募による外国人教員の招聘や海外大学での教育経験または国内外の大学で英語等による教育経験を有する日本人教員の配置、海外相手大学との教員交流、ＦＤ等による教育力の向上等、質の高い教育が提供されるよう交流プログラムの内容に応じた教育体制の充実が図られているか。  ○　JD、DDの設計に当たっては、中央教育審議会大学分科会大学のグローバル化に関するワーキンググループ「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」（平成２６年１１月）を踏まえたものとなっているか。  ○　高等教育の資格の承認に関するアジア太平洋地域規約（通称：東京規約）において推奨する、「部分的な修学の承認」や「非伝統的な資格取得の形態」により取得された資格の承認・評定（例：学修歴証明のデジタル化、マイクロクレデンシャル）の趣旨や考え方を十分に理解した上で、プログラムが構築されているか。 |
| 【実績・準備状況】 |
|  |
| 【計画内容】 |
|  |

|  |
| --- |
| **達成目標【①～④合わせて１５ページ以内】** |
| ○　国民にとって分かりやすい具体的な目標が設定されているか。また、当該目標がプログラムの社会的・国際的通用性を示すものとなっているか。  ○　アウトプットだけでなくアウトカムに関する具体的な目標及び指標が設定されているか。 |
| **①　将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について**  ○　海外相手国との将来の関係を見据え、各国間における連携強化に資する観点から、社会的・文化的・経済的認識に根ざした、両国間の架け橋となる高度専門人材やリーダーの育成を実施する質の高い教育連携プログラムとなっているか。（★） |
| （ⅰ）事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで） |
|  |
| （ⅱ）中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで） |
|  |
| **②　養成しようとするグローバル人材像について**  ○　養成しようとする人材像が明確に設定されているか。（これを踏まえたアウトプット及びアウトカムが設定されているか）  ○　本事業へ参加する学生に修得させる具体的能力が設定されているか。 |
| （ⅰ）事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで） |
|  |
| （ⅱ）中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで） |
|  |
| **③－１　学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について**  ○　一定の外国語力基準（外部検定試験のスコア等）をクリアする日本人学生数について適切な目標が設定されているか。（★） |
| （ⅰ）本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標 |
| 単位：人（延べ人数）   |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 外国語力基準 | | 達成目標 | | | 中間評価まで  (事業開始～2024年度まで) | 事後評価まで  (事業開始～2027年度まで) | | 【参考】本事業計画において派遣する  日本人学生合計数 | |  |  | | １ |  |  |  | | ２ |  |  |  | | ３ |  |  |  | |
| （ⅱ）外国語力基準を定めた考え方 |
|  |
| （ⅲ）事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2027年度まで） |
|  |
| （ⅳ）中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2024年度まで） |
|  |
| **③－２　学生に習得させる具体的能力のうち、「③－１」以外について** |
| （ⅰ）事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで） |
|  |
| （ⅱ）中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで） |
|  |
| **④　質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について**  ○　質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組が設定されているか。 |
| （ⅰ）事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで） |
|  |
| （ⅱ）中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで） |
|  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **⑤　本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【３ページ以内】**  ○　交流学生数（日本人学生の派遣・外国人学生の受入別、国別、実渡航・オンライン・ハイブリッド、単位取得の有無や交流期間、学部・大学院別）について適切な目標が設定されているか。（★）  ○　学則に定める大学全体の収容定員数に対し、毎年２～６％にあたる日本人学生が、オンラインも含め米国の学生と交流する計画となっているか。（★） | | |
| 現状（２０２３年５月１日現在）※１ |  | 人 |
| （ⅰ）日本人学生数の達成目標 | | |
| 単位：人（延べ人数）   |  |  | | --- | --- | | 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで） |  | | 中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで） |  | | | |
| （上記の内訳）  （ⅱ）目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について） | | |
| 単位：人   |  |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | |  | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 | 合計 | | 実際に渡航する学生 |  |  |  |  |  |  | | 自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 |  |  |  |  |  |  | | 実渡航とオンライン受講を行う学生 |  |  |  |  |  |  | | 合計人数 |  |  |  |  |  |  | | | |
| （ａ）実渡航による交流 | | |
|  | | |
| （ｂ）オンラインによる交流 | | |
|  | | |
| （ｃ）実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流 | | |
|  | | |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **⑥　本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【３ページ以内】**  ○　交流学生数（日本人学生の派遣・外国人学生の受入別、国別、実渡航・オンライン・ハイブリッド、単位取得の有無や交流期間、学部・大学院別）について適切な目標が設定されているか。（★） | | |
| 現状（２０２３年５月１日現在）※１ |  | 人 |
| （ⅰ）外国人学生数の達成目標 | | |
| 単位：人（延べ人数）   |  |  | | --- | --- | | 事業計画全体の達成目標（事業開始～2027年度まで） |  | | 中間評価までの達成目標（事業開始～2024年度まで） |  | | | |
| （上記の内訳）  （ⅱ）目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について） | | |
| 単位：人   |  |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | |  | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 2026年度 | 2027年度 | 合計 | | 実際に渡航する学生 |  |  |  |  |  |  | | 自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 |  |  |  |  |  |  | | 実渡航とオンライン受講を行う学生 |  |  |  |  |  |  | | 合計人数 |  |  |  |  |  |  | | | |
| （ａ）実渡航による交流 | | |
|  | | |
| （ｂ）オンラインによる交流 | | |
|  | | |
| （ｃ）実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流 | | |
|  | | |